

## 仙人通信 130 稻含山 (1370 m)

稻含山は原三角原点のある赤久縄山の北側にあり、文化遺産となった富岡製糸場と高速を挟んで対峙する山である。稻含とは、豊稲田姫がこの地に養蚕と稲作をもたらす事に由来するらしい。山頂からの展望は360°で、嘗て登った御荷鉢・赤久縄・荒船・浅間周辺・妙義・赤城等の上州の山々が眺望できる山である。

織田信長の末裔7代の城下町である小幡より雄川に沿った県道46号から、神の池まで進み、車を置いてのコースであるも、頭に描いた風景と異なり、通り過ぎてしまい先の峠の駐車場(1010 m)からのスタートとなった。

山頂を示す道標に従って7分程進むと、神の池と赤鳥居を示す道標がある鳥居峠である。鳥居を潜るとコンクリートの丸棒状の急な階段が続く。花々の狭間なのだろうか赤いヤマツツジ以外は、新緑のみだ。足元の岩は、青みを帯びた御荷鉢層が中心のようである。赤鳥居から30分程で鎖場も過ぎ、10分程で稻含神社本殿の祀られた地点、そして山頂までは更に10分(スタートからほぼ1時間)である。登山道はすれ違いがやっとなのであるが、谷側には安全柵が設置され、安心して登れるコースである。山頂からの眺望を期待しての登山であったが、台風の通過もあり、視界が霧に包まれ30 m位しか利かない・・・残念!。山頂には10 m程の円周状にヤマツツジが花を付けており、キツツキのドラムとウグイスの声を聴いてゆったりとして休憩をとった。

下山は登って来た路を15分程戻った地点にある秋畑稻含神社方向を示す道標に従い進む。尾根を越え、沢頭を横切るコースである。登って来たコースと異なり、木の丸太を組み合わせた登山道である。崖の間に黄色いキジムシロが目に入り、他に花は無いか探すと白に赤い筋が入ったミヤマクワガタ・白い小さな花が集まったユキザサを見つけホットしてシャッターを切った。やがて秋畑神社の社と鳥居を過ぎると、神の水場である。

沢水が岩の間をチョロチョロと流れ、それに白いヒロハコンロンソウがよく似合う。沢から離れるに従いコースは緩やかになる。白いチゴユリが1輪だけ咲いていた。次を期待したがチゴユリはこの1輪のみであった。秋畑神社から50分程で、一の鳥居に着き、車で登って来たダートコースを横切り10分程で神の池である。檜に包まれた50坪に満たない小さな池であるが、赤いヤマツツジ・白いヒメウツギが満開となり、足元では白いヒロハコンロンソウが一面に咲き、ヒカゲスミレそして紫のラショウモンカズラが見事である。ヒキガエルが唸り、ウグイスとホトトギスが鳴き競う神秘的な池の四阿でゆっくり昼食をとり、20分程かけて車に戻る3時間強(11000歩)の山路を楽しみました。(h 27.5.20)

山頂



神の池



ミヤマクワガタ

